

# ノーム通信86

2003-8

〒130 0026 東京都墨田区両国4-30-4-1109

## GNOMES



山から新宿駅まで帰ってきた。蕪崎で乗った列車が快速列車で特急券がいないという実に気分の良いものであった。しかし、蕪崎のホームには何も無い、無いと言ったらこんりんざいなといういさぎ良いがらんとしたホームでまずいことにホームへ登ったらまもなく列車が入って来てしまった。もっとまずいことに向かい合わせのワンボックスにゆったりと座り窓には山々が穏やかに流れていくという本なら最高の場面であったのだ。ここでおじさん二人はうろたえた。これから何時間ものこの場面に酒がないのだ。人生でこんなに追いつめられた場面というのはあまりない。しばらく唾然として互いのアホずらを呆然と見てい

るばかりで、気持ちが落ち込んだ。その時ふっとひらめいたのだ。「そうだ、あるではないか。」そうなのだ。スポンの後ろのポケットに一瓶忍ばせていたのだ。いただきもののジョニーウオーカーのグリーンラベルがあったのだ。わっと立ち上がってごそごそと出すと、たちまち二人とも機敏にザックを下ろしてカップを出し、「そうだ、これもあるんだ!。」とおつまみの乾きものも登場する。救われたのです。あやうく、おじさん二人でじっと見詰め合う無為で空白の数時間という恐怖から解き放たれ笑顔が満ちる。酒と言うのは色々、非難、中傷、罵詈雑言、荒唐無稽な悪口の数々を言われ続ける中で、じっとはかなげ耐えてこんな時に救世主のようにしかも控えめに登場する。実にけなげなのだ。

そうして新宿である。しかしその新宿がとんでもない迷路になっていた。どうやって他のホームへ行くのか、どうやって南口に出るのかも解らないのだ。結局どこかのにぎやかな中にほんとに放り出されてしまった。彼は「確か場外が(競馬の場外馬券売場)あったはずだから、その回りには、良い飲み屋があるはずだ。」と果敢に前進してみたが行けども行けども、のっぺりした顔のおねーちゃんやおにーちゃんばかりがたむろする一見おしゃれな店ばかりで、汚れた半スポンにサンダル履きで破れた帽子をかぶりザックをかついでいる、見方によったらホームレス風の二人には気持ちよきはまれそうな店はなかった。だいたいその「場外」さえもないのだ。どうにか地下に潜って薄暗い中でジョッキを飲めたが、なんだかメニューがおしゃれなものばかりで、落ちつかない。

なんだか世の中一見おしゃれになっていくばかりで、ヒトの顔も元気がないか、とげとげしいか、異常な笑いなどに満ちていて、ほくとつな男達が太い指でコップをわしづかみにしてられるような場所が少なくなっている。新宿、池袋、渋谷、原宿とそんな汚染地域が広がっている。ここいらでひとつおじさん達の飲み屋エリア防衛作戦を始めなければいけないかもしれない。どんなに街が進化してもヒトの弱さを抱く空間が必要なのだネオンの下で思っていた。

北アルプスの1週間も良かったし、8月9月は隙をみては山に遊びに行きます。9月の編集は20日にやります、手伝える方はお願いします。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>  
TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com